

# Lib.

京都産業大学図書館報

Vol. 43, no. 2 (Oct. 1, 2016)

- 
- |                                 |                           |       |
|---------------------------------|---------------------------|-------|
| ・特集 作家浅田次郎 ～読むこと 書くこと 生きること～    | ・図書館と私 (第3回) .....        | 11    |
| 京都産業大学図書館書評大賞講演会報告 etc... 2-5   | ・情報の探し方 (No.28)           |       |
| ・仲間と共に学ぶ空間「Lib.コモンズ」をご紹介... 6-7 | 「国立国会図書館デジタルコレクション」 ..... | 12-13 |
| ・図書館を賢く使っていただきます。(その8)          | ・今をキャッチ。(キーワード07)         |       |
| 「貴重品ロッカーの使い方」 .....             | 「人工知能の今と未来」林原 尚浩 .....    | 14    |
| ・ブック・ツイート大賞2016作品募集始まる! .....   | ・自著を語る (No.92)            |       |
| ・ピブリアたいむず (第5回)                 | 『「特集」談話、テキスト、会話』平塚 徹..... | 15    |
| 「聖地巡礼」ぼくは明日、昨日のきみとデートする ...     |                           | 10    |
- 



# 作家 浅田次郎

特集  
～読むこと 書くこと 生きること～

2016年7月27日(水), 多彩な作風で読者を魅了し続ける直木賞作家で日本ペンクラブ会長の浅田次郎氏を講師にお迎えし, 京都産業大学図書館書評大賞講演会を開催しました。今回は「読むこと 書くこと 生きること」をテーマとして浅田氏にお話いただきました。

講演会は, 「将来, 小説家になりたいと思っている人?」「将来, 読み書きに携わっていきたくて思っている人?」という質問から始まった。

それは以前, 浅田氏本人も, ある作家の講演会に行き行って同じ質問をされた経験があるからだ。その頃は恥ずかしくて手を挙げるができなかったそう。何人かの学生が挙手したが, 浅田氏のように手をあげられなかった学生もいたかもしれない。



## ■直木賞, 芥川賞とは? 大衆文学, 純文学とは?

「小説家になるということは, 直木賞, 芥川賞を取ってやっとなべていけるというのが現実だ」と浅田氏。直木賞は大衆文学, 芥川賞は純文学という位置づけがあるが, では大衆文学と純文学との違いは何か? 「そこにははっきりした定義はなく, 簡単に言えば, 大衆娯楽を追求したものと芸術性を追求したものという分け方もあるだろうがそれでは矛盾が生じる。なぜなら芸術というのは美の追求, 本来なら天然にしかない“美”というものを人間の営みを含めてそれを人間の力で表現するものだからだ。一流の芸術というのは大衆的であり, 芸術というのは最大の娯楽である。しかしその大衆の生活から芸術が乖離してしまった」。「芸術=娯楽」という文学論からすると, 大衆文学と純文学との区別の仕方は矛盾がある。小説にそのような区分けはなく, あるのは, 「いい小説と悪い小説」だ。書く人も読む人もジャンルにとらわれないほうがいい。「言葉で芸術を創り出す人間として, いつも自分は天然の模倣をしているという気持ちで書いている。天然にはかなわないという謙虚な気持ちをもっていなければ芸術をやる資格はないと思っている」と持論を展開した。



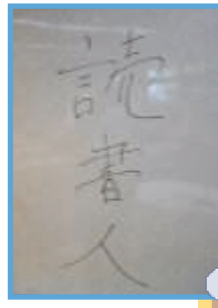
## ■有効的な時間の使い方とは?

現代の若者が読書ではなくスマートフォンばかりを触っていることについて一定の理解を示しつつも浅田氏は, 「人には平等に24時間が与えられている。冷静に24時間をどのように使っているか考えてみてはどうだろうか? 曖昧なことに時間が浪費されている気がする。例えば, スマホ。スマホを触る時間を減らしてできるだけ1日4時間の読書タイムを持ちましょう! 何もなかった時代の人と同じような時間の使い方ができるかどうかでその人の人生が変わると思う」と学生達に時間の使い方についてアドバイスした。また, 一番ためになる本というのは自分の想像力を喚起させる本でありそれは“文学”である。想像力が豊かでなければ何も創り出すことはできない。想像の基盤をつくりたいのならば哲学書を読むのがいい」と語りかけた。



## ■読書のチカラ、活字のチカラ

講演会の途中でホワイトボードに「読書人」と書かれ、中国と日本での解釈の違い、幕末の日本の教育がいかに行き届いていたかという歴史的観点からのお話があり、教養について「真の教養は活字を通してしか得ることはできない。他の媒体から得た情報はインデックスだと思ってその後、本を読んで活字からくみ取るという作業を繰り返していくことが肝心。潤沢かつ正確な教養は活字からしか得られないということは肝に銘じておいてください」と語った。



## ■学生のみなさんへメッセージ

浅田氏が小説家を志したきっかけは、読んでこんなに面白い物語なら自分で書いたらもっと面白いだろうなと思ったことと、川端康成の『伊豆の踊子』の結末に納得できず、それをハッピーエンドに書き直したことだという。何でも面白い気持ちが大変だとも語った。

「小説家になるために必要なことは根気であり、才能のあるなしは決定的ではない。どんなに才能のある人でもひとつのことを愚直にずっとやり続けている人にはかなわない。将来は色々あると思うがなるべくひとつのことを長くやりましょう」とアドバイスをいただいた。

最後に、「みなさん、勉強だと思わずに今日から1日4時間本を読んでください」と学生にメッセージが送られた。

### ■学生から浅田氏への質問をご紹介します！■

Q：物書きになるのを両親に反対されている。どうしたらいいですか？

A：今の子は親に服従しすぎている。反骨精神が大事。ものを書いて飯を食うというのは簡単なことではないが、自分で選んで自分で成熟させていくのが人生なので、結局やるかやらないかということになる。自分の意志で頑張って！一生懸命やってる人は大丈夫！

Q：常に10冊の本を同時に読んでいます。この読書法はどうですか？

A：私は小説を読むときは1冊ずつ読むが、資料を読む時は同時に読んでるので、その考え方は理解できる。オリジナリティのある読み方でいいと思う。個性があることはとても大切。

Q：試験の問題を解く以前に「問題が理解できない」という国語力の低下をどう思われますか？

A：自分の経験からだが、初等教育では国語力をつけさせるということに集中してほしいと思う。国語力はすべての学問の基礎なので、本当に大事。

浅田氏のユーモアを交えた幅広いお話はとても興味深く、時間があっという間に過ぎてしまいました。本当に貴重なお話をいただきありがとうございました！

浅田氏の新刊は今年の10月に出版されるそうです。今から楽しみです。



# 作家 浅田次郎

特集  
～読むこと 書くこと 生きること～

今回ご講演いただいた浅田次郎氏は、1951年東京生まれ。1991年に作家としてデビュー以来数々の作品を執筆されており、本学図書館でも浅田氏の作品をたくさん所蔵しています。その中から文学賞受賞作を中心に、いくつかご紹介しましょう。※**太字の書名**は、請求記号を付記していませんが、本学図書館に所蔵しています。



1995年 第16回吉川英治文学新人賞受賞作  
『**地下鉄（メトロ）に乗って**』  
浅田次郎著、講談社、1999  
(913.6||ASA 2階 文庫)

傲慢な父親に反発して家を出た真次はある晩、地下鉄永田町駅構内の階段から過去へタイムスリップし、戦中戦後の混乱を生きる父や自殺する直前の兄、真次の不倫相手の過去に遭遇します。現在と過去を行き来しながら主人公が見た家族の姿とは。堤真一主演の映画やドラマ、ミュージカルにもなった作品です。

■吉川英治文学新人賞とは  
公益財団法人 吉川英治国民文化振興会が主催する文学賞。1980年から年1回受賞作が発表されており、第37回(2016年)は薬丸岳氏が受賞しています。

■本学で所蔵する近年の受賞作  
第31回(2010年)『**鉄の骨**』池井戸潤著、第32回(2011年)『**ツナグ**』辻村深月著など。



1997年 第117回直木賞受賞作  
『**鉄道員（ぼっばや）**』  
浅田次郎著、集英社、1997  
(913.6||ASA 貴重書庫)

高倉健主演で映画化され話題になったこの作品は、意外にも短編です。主人公・佐藤乙松は、廃線も間近な北海道幌舞線の終着駅・幌舞の駅長として、娘や妻が亡くなった日も愚直なまでに鉄道員として仕事第一を貫きました。定年が近づくそんな彼のもとに現れた不思議な少女。彼女はいったい……。

他に、映画化された「ラブ・レター」「オリオン座からの招待状」など珠玉の短編全8編が収録されています。

■直木三十五賞(直木賞)とは

公益財団法人日本文学振興会が運営。文藝春秋の創業者・菊地寛が、友人である直木三十五の名を記念して創設した文学賞で、同じく芥川龍之介の名を記念して創設したのが、芥川龍之介賞(芥川賞)です。1935年から年2回受賞作が発表されており、現在浅田氏は選考委員のおひとりです。第155回(2016年上半期)は萩原浩氏の『**海の見える理髪店**』が受賞しています。

■本学図書館で所蔵する近年の受賞作

第143回(2010年上半期)『**小さいうち**』中島京子著、第146回(2011年下半期)『**蝸ノ記**』葉室麟著、第148回(2012年下半期)『**何者**』朝井リョウ著、第150回(2013年下半期)『**昭和の犬：Perspective kid**』姫野カオルコ著、ほか多数。

## 『帰郷』

浅田次郎著、集英社、2016  
(913.6||ASA 貴重書庫)  
タイトル作を含む、戦争によって翻弄される人々の物語が全6編収録された短編集。

## 『獅子吼』

浅田次郎著、文藝春秋、2016  
(913.6||ASA 2階)  
戦争の不条理さを“獅子”の目を通して描いた「獅子吼」のほか、こちらも全6編からなる短編集。



## 『うなぎ：人情小説集』

日本ペンクラブ編；  
浅田次郎選、筑摩書房、2016  
(913.68||NIH 2階 文庫)  
日本ペンクラブ会長・浅田氏が選ぶ人と“うなぎ”にまつわる名作集。

## 『わが心のジェニファー』

浅田次郎著、小学館、2015  
(913.6||ASA 2階)  
愛しのジェニファーに告げられ一人日本を旅するのはアメリカ人青年のラリー！



2000年 第13回柴田錬三郎賞  
受賞作  
『壬生義士伝』上・下  
浅田次郎著, 文芸春秋, 2002  
(913.6||ASA||1-2 2階 文庫)

浅田次郎氏初の時代小説で、映画やコミックにもなっている作品です。貧しさのため盛岡藩を脱藩した吉村貫一郎は新撰組に入隊し、守銭奴と言われながらも妻子への仕送りのため人を斬り続け、非業の死を遂げます。新撰組の生き残りや元南部藩の人々の口をおして語られる「義士」の生き方、家族への愛。盛岡弁の美しさが光ります。

- 柴田錬三郎賞とは  
集英社が主催する文学賞。1988年から年1回受賞作が発表されており、第29回(2016年)は10月発表予定。
- 本学で所蔵する近年の受賞作  
第25回(2012年)『紙の月』角田光代著, 第26回(2013年)『夢幻花』東野圭吾著など。



2006年 第1回中央公論文芸賞,  
第10回司馬遼太郎賞受賞作  
『お腹召しませ』  
浅田次郎著, 中央公論新社, 2008  
(913.6||ASA 2階 文庫)

『五郎治殿御始末』に続く6つの時代短編集。明治生まれの祖父から作者が聞いた、幕末から明治期にかけての侍たちの物語。『地下鉄に乗って』と同じく、現在と過去を行き来する形式で語られます。

- 中央公論文芸賞・司馬遼太郎賞とは  
中央公論文芸賞は中央公論新社が2006年に創業120周年を記念して創設され、司馬遼太郎賞は司馬遼太郎記念財団が主催し、1997年に創設された文学賞。
- 本学で所蔵する近年の受賞作  
【中央公論文芸賞】第8回(2013年)『北斗：ある殺人者の回心』石田衣良著など。  
【司馬遼太郎賞】第18回(2014年)『ノボさん：小説正岡子規と夏目漱石』伊集院静著など。



2008年 第42回吉川英治文学賞  
受賞作  
『中原の虹』 1巻-4巻  
浅田次郎著, 講談社, 2010  
(913.6||ASA||1-4 2階 文庫)

清朝末期からの中国宮廷を舞台とした長編作で『蒼穹の昴』『姪姫の井戸』に続くシリーズ3作目。馬賊の長として才覚を現していく張作霖、清朝の行く末を憂える西太后、軍の実力者・袁世凱など中国史上の人物が、天命を示す「龍玉」をめぐる織りなす大河小説。以後もシリーズ続編が刊行されています。

- 吉川英治文学賞とは  
公益財団法人 吉川英治国民文化振興会が主催する文学賞。1967年から年1回受賞作が発表されており、第50回(2016年)は赤川次郎氏が受賞しています。
- 本学で所蔵する近年の受賞作  
第43回(2009年)『オリンピックの身代金』奥田英朗著, 第44回(2010年)『十字架』重松清著など。



2010年 第64回毎日出版文化賞  
受賞作  
『終わらざる夏』上・中・下  
浅田次郎著, 集英社, 2013  
(913.6||ASA||1-3 2階 文庫)

浅田氏が、構想から30年を経て執筆された戦争小説。終戦(1945年8月15日)からわずか3日後に、北海道の東端から続く千島列島の最北端にある美しい島・占守(しゅむしゅ)島で起きたソ連軍との「戦争」。そこへ関わっていく民間人や軍人、その家族たち等、それぞれの視点から「戦争」を描いた群像劇となっています。

- 毎日出版文化賞とは  
毎日新聞社が主催する文学賞。文学・芸術部門を含む計5部門がある。1947年から年1回受賞作が発表されており、第70回(2016年)は11月に発表予定。
- 本学で所蔵する近年の受賞作  
第66回(2012年)『東京プリズン』赤坂真理著, 第69回(2015年)『京都』黒川創著など。

『アイム・ファイン!』

浅田次郎著, 集英社, 2015  
(914.6||ASA 2階 文庫)  
飛行機の機内誌に連載中のエッセイを書籍化。



『君は嘘つきだから、

小説家にでもなればいい』  
浅田次郎著, 文芸春秋, 2014  
(914.6||ASA 2階 文庫)  
浅田氏が少年時代にある人から言われた言葉がタイトルになったエッセイ集。

『一路』上・下巻

浅田次郎著, 中央公論新社, 2015  
(913.6||ASA 1-2 2階 文庫)  
幕末、小野寺一路は初の参勤交代を取り仕切るため、家伝の行軍録片手に中山道を進む。

『憑神』

浅田次郎著, 新潮社, 2007  
(913.6||ASA 2階 文庫)  
幕末の江戸で、武家の次男坊(失業中)の彦四郎にとり憑いたのは「疫病神」たちだった。

# 仲間とともに学ぶ空間「Lib.コモンズ」をご紹介します

～図書館ホールをアクティブ・ラーニング・スペースとして活用！～



## ディスカッションやグループワークは「Lib.コモンズ」で！

2016年より、図書館1階の図書館ホールは「Lib.コモンズ」という愛称が付きまして。

これまでと同様に、授業やガイダンスなどで使用されていないとき、学修スペースとして自由に利用したり、課外活動などの発表の場として活用できます。Lib.コモンズでのディスカッションやグループワーク、発表を通じて、学生の皆さんが互いに刺激し合い、新たな発想と出会うことで、多様な学びが展開されることを期待しています。

本記事では、Lib.コモンズの使い方についてほんの一例ですが、ご紹介します。

## 机や椅子は自由に組み合わせて使えます。



ホワイトボードを使うと議論に深みが出やすくなります。



少し変わった机の組み合わせを試すと、良い刺激になるかもしれません。



Lib.コモンズ前方のキャスター付きの机と椅子は、利用するグループの人数や学修の仕方、その日の気分などに合わせて、自由に組み合わせることができます。ディスカッションやグループワークなどをする際に活用してください。可動式の机は全部で20台、椅子は60脚あり、机1台あたり3人掛となっています。

作業をサポートするツールとして、可動式のホワイトボードと専用のペン、イレイザーがあります。例えば白熱した議論の内容を書き留め、グループ全体で流れを確認し合うことができます。PCを接続して使用するモニタもありますので、ノートPCを持ち込めば、Web上の情報やパワーポイント資料をグループで共有することができます。

図書館内でディスカッションやグループワークをすることの最大の強みは、豊富な資料がすぐそばにあるということです。分からないこと、確認したいことがある時、すぐに資料を使って調べることができます。



PCはプレゼンテーションに必須のアイテム。モニタを積極的に活用してください。

## 机の上に自由に書き込みできるソファ席があります。



Lib.コモンズに入って右手の窓側にソファ席があります。机と椅子は固定式ですが、机上全面にホワイトボードとほぼ同質のシートが貼られていて、自由に書き込みできるようになっています。6人掛で机は2台あり、ゆったり座れるためか、利用者ですぐに埋まってしまう人気のコーナーです。

机上に直接書き込みできることの強みは、自由に書ける範囲の広さと自分以外のメンバーと情報の共有がしやすい点です。グループでの話し合いが思うように進まない時などに、ソファ席をぜひ一度お試しください。

## 課外活動の発表の場として利用できます。



ギタークラブ Live! 2015 Spring



落語長屋オンステージ!! 漫才☆SHOW



フラメンコライブ

課外活動の日々の成果を披露する場として、Lib.コモンズで発表会やライブを行うことができます。写真で掲載している3点の事例以外にもマンドリンクラブによる演奏会など、積極的に活用されています。

希望する場合は、まずは本学の学生部までご相談ください。クラブ、サークル以外の活動による申し込みも受け付けています。

※ただし、本学構成員からの申し込みのみ受け付けます。

## その他、注意してほしいポイント



図書館内は通常、1階休憩室を除いて飲食を禁止していますが、Lib.コモンズ内はペットボトル飲料のみ、飲むことができます。ペットボトル以外の飲物、食事は禁止していますのでご注意ください。

共同利用のスペースですので、居眠りなど、他の利用者の迷惑となる行為はご遠慮ください！

# 図書館を賢く使っていただきます。

## ～ その8 貴重品ロッカーの使い方 ～



### 貴重品ロッカーの使用方法

(貴重品ロッカーは2階階段横にあります)

- <収納>
- ✔ タッチパネルの画面に触れる (起動)
  - ✔ 画面の収納キーを押す
  - ✔ 扉番号 (3桁) を入力し、確認キーを押す
  - ✔ 暗証番号 (4桁) を入力し、確認キーを押す
  - ✔ 貴重品を収納し、扉を閉じる
- <取出>
- ✔ タッチパネルの画面に触れる (起動)
  - ✔ 画面の取出キーを押す
  - ✔ 利用中の扉番号 (3桁) を入力し、確認キーを押す
  - ✔ 暗証番号 (4桁) を入力し、確認キーを押す
  - ✔ 貴重品を取出し、必ず扉を閉じる

ロッカーの使用は、当日のみとします。  
 利用目的は、貴重品の保管に限ります。  
 取出しを忘れた場合は図書館1階事務室に受け取りに  
 来てください。



# ブック・ツイート大賞 2016

## 作品募集 始まる！

「ブック・ツイート大賞 2016」の作品募集が11月7日（月）から始まります。そこで、「ブック・ツイート大賞 2016」に応募する意義や応募から表彰までの一連の流れなどを紹介します。ぜひ、ご応募ください！

### 1. 「ブック・ツイート大賞」とは何か？

「ツイート」には、小鳥の「さえずり」という意味があり、有名なSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）では短い文章を投稿する「つぶやく」行為として扱われています。つまり、「ブック・ツイート大賞」とは、**図書館が所蔵する図書（＝ブック）を読み、その図書の魅力・素晴らしさや感動などを短い文章でまとめ（＝ツイート）**、応募し、その応募作品を**図書館利用者による投票**や**審査員による審査**で評価するコンテスト形式の図書館イベントです。

### 2. 「ブック・ツイート大賞」に作品を応募する意義は何か？

「ブック・ツイート大賞」へ応募された作品で、応募上の注意点を満たした全作品は図書館内で掲示され図書館利用者による投票が行われたり、審査員による審査の結果、入賞した作品は本誌『図書館報Lib.』などに掲載されるので、多くの人に、おすすり本をあなたの言葉で紹介することが出来ます。このため、書店サイトや通販サイトのブック・レビューの様に、**図書館を利用する方に、その本を読みたいと思わせる「ブック・ツイート」**を目指して、応募してください。図書館が所蔵する資料を読みこなし、その資料の魅力を短い文章で表現することは、皆さんの「文章理解力」「要約力」「表現力」が養われるものと考えています。

### 3. 「ブック・ツイート大賞」の一連の流れについて

「ブック・ツイート大賞」への応募は特別難しいことではありません。その一連の流れはすごくシンプルです！

- (1) ①応募者は図書館所蔵の本を読み  
ます  
②読んだ本の魅力・素晴らしさや  
感動などを伝える「おすすめ文」  
を200～300文字で作成します  
③「lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp」  
へメールで送信します



- (2) 図書館内で図書館利用者による応募作品への投票が行われ、その結果に基づき、表彰が行われます

- (3) さらに審査員による審査が行われ、大賞、優秀賞などが決定され、左記(2)とは別の表彰が行われます



注：イラストは参考イメージであり、顔写真は公表されません

#### 【「ブック・ツイート大賞 2016」の応募・投票概要】

##### <応募について>

- 応募期間：11/7（月）～11/25（金）
- 対象者：学部学生、大学院生
- 対象資料：本学図書館所蔵図書
- 文字数：200文字以上300文字以内
- 応募方法：パソコン、スマートフォン、携帯電話等によるメール送信
- 応募回数：一人複数編応募可
- 氏名：ペンネームの使用を認めます
- 剽窃：厳禁
- 応募上の注意点：1. 応募できる作品は未発表の作品に限ります 2. 誹謗中傷・表現や内容に問題のあるものは不可とします 3. 応募作品の著作権は京都産業大学に帰属します
- 賞品：図書カード（投票結果による表彰（図書カード1,000円）と審査による表彰（図書カード大賞4,000円など）の2種類あります）

##### <投票について>

- 投票期間：12/5（月）～12/16（金）
- 対象者：図書館利用者
- 投票場所：図書館内にて
- 投票方法：図書館内に掲示されるブック・ツイート応募作品へ投票用シールを1人1枚1作品へ貼りつけてください

※詳細は図書館Webサイト、POSTをご覧ください

# ビブリアたいむず (第5回)

図書館サポートチーム「ビブリア」からの情報発信ページです！

## 聖地巡礼 ～『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』～

今回私たちビブリアメンバーは、七月隆文(著)『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』の聖地巡礼をしてきました。主人公である南山高寿とヒロインの福寿愛美が甘く切ない恋愛をする物語です。この小説は舞台となった場所が京都ということや、映画化され、2016年12月に公開が決まったことでも話題になっています。



池の様子を確認するビブリアメンバー。餌をもらえると勘違いした鯉が寄ってきます。

### ▶ 宝ヶ池公園

まず、私たちは高寿と愛美が会って初めて訪れた宝ヶ池公園を目指しました。物語と同様に、叡山電鉄宝ヶ池駅から宝ヶ池の淵にある東屋までの約1.4キロを歩きます。作中の季節は春ということもあり、公園に向かう途中の川辺には桜が咲いているのですが、私たちが訪れたのは夏真っ盛りの時期。駅から公園までの20分の道のりはとても暑く、また宝ヶ池に沿った道は砂利道でしたので、サンダルを履いていった女性陣は歩くのが大変でした。何とかたどり着いた東屋のバルコニーでは、池で泳いでいる鯉が見えると作中であつたので実際に覗いて見てみると、たしかに大きな鯉がたくさん泳いでいました。

宝ヶ池公園は物語では重要な場所です。最初に2人が訪れた場所であり、最後に訪れる場所でもあることから、高寿と愛美にとって思い出の地であると思われます。最初に訪れたときと同じ東屋で、2人は宝ヶ池と国際会館をバックに写真を撮ります。実際に高寿と愛美が写真を撮った構図と同じように立ってみると、小説と分かっていながらも2人はここにいたのだなと思わずにはいられませんでした。

### ▶ 河原町商店街周辺

次に向かったのは、作中で主人公たちがデートで回った河原町の商店街周辺のお店です。多くの人でにぎわっており、実際に何組かのカップルも目にしました。1軒目に向かったのはスターバックス・コーヒー 京都三条大橋店です。時期が限られているものの、店の外側にある鴨川納涼床でくつろぐことができます。ただ、混雑しているためあまり長い間は滞在できないと思ったのが正直な感想でした(汗)。

続いて2人が食事するピザのお店に向かおうとしたのですが、残念ながら今はもう営業しておらず、代わりに天ぷら屋になっていました。こちらも普通の食材だけではなく揚げアイスや揚げバナナなどがある特徴的なお店でしたので、ぜひ一度食べに行ってみてはいかがでしょうか。

最後に向かったのは、扇子屋です。扇子というと高そうなイメージがありますが、この作中に出てくるお店はそんなことはありませんでした。高く上質なもののだけでなく、2,000～3,000円と安価で手軽なものまで多く揃えていました。ビブリアメンバーも実際に買って見ましたが、風流で涼しさを感じる趣のあるものでしたので、ぜひ河原町商店街に行った際には立ち寄ってみてはいかがでしょうか！



ショーケースにはおしゃれな扇子が並んでいます。ビブリアメンバーも1本購入しました！



### 『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』

七月隆文著、宝島社、2014  
(913.6||NAN 2階 文庫)

### ビブリア新メンバー募集中！

ビブリアは図書館で活動している学生団体です。具体的には、おすすめ本のPOP作製や図書館に関して企画を立案する団体です。本好きにはたまらない！他の活動やサークルとの掛け持ちも大丈夫なので、興味のある人はぜひ一度見学に来てください。お待ちしております。

活動日：毎週水曜日

時間：12：15～(昼休み中心)

場所：図書館3階業務ブース

連絡先：lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp

(学生証番号、氏名、連絡先を明記し、メールでご連絡ください)



# 図書館と私 3

利用者の  
図書館にまつわる  
エッセイをご紹介します！



## 図書館の思い出とこれからの出会い

総務部職員 椿 俊紀（つばき としのり）

私は本が好きだ。図書館も好きだ。

図書館を舞台にした話は当然好きだ。

図書館を舞台にした話といえば、ジブリ映画の「耳をすませば」である。この年になって甘い初恋の話にドキドキするわけではなく、何に惹かれるかという、昔ながらの図書館のあの貸出カードの仕組みである。本の裏表紙にあって、借りた人の名前が記入されていくあれのことだ。映画でも、貸出カードにいつも見かける名前があって……というように物語は進む。しかし、残念ながらこの貸出カードは時代の流れからか、もう見かけることはなくなってしまった。

私が小学生のころ、地元の図書館の本の裏表紙には日付スタンプを押すシートがついており、その本が自分の前にいつ読まれたのが分かった。シートに日付スタンプがなければ、自分が最初にその本を借りるということである。きれいな司書のおねえさんから「最初の読者だね」と言われたときは嬉しかったのをよく覚えている。

今でもよく行くその図書館は、中学生のころに日付スタンプの仕組みはなくなり、借りた本にはレシートが出てきて返却日がわかるようになった。相変わらず新着図書から借りる私は、「また新しいのから借りて」と、今でもきれいな司書のおばちゃんに言われている。

さて、本学の図書館である。こちらはマイライブラリーという機能で借りている本の状況から過去に借りた本まで、すべてネットで見ることができる。とても便利だ。

職場の図書館だから変な本は借りていないはずだと、今回、過去の履歴を振り返ってみた。『戦争をなくすための平和学』『芸術と科学のあいだ』『人生処方詩集』……。きちんとまじめそうな本を読んでいる。一方で、『ジュゴンの上手なつかまえ方』『ダイオウイカは知らないでしょう』……というような本もあった。

本との出会いは、そのときそのときのタイミングでいろいろだ。振り返ってみると、その本の内容だけでなく、借りた当時の様子も思い出されておもしろい。

様々な本との出会いがあって、いろいろなことを考えるようになる。戦争について考えることもあれば、ジュゴンを捕まえようと思うこともある。

やはり本はおもしろい。図書館はおもしろい。

図書館という舞台ではきっと素敵な話が見つかる。

だから、今日も帰りは図書館に寄ろうと思う。



## 情報の探し方 No.28

現在導入しているデータベースなど、学修・研究をする上で欠かすことのできない検索ツールの利用方法などを紹介するコーナーです。



「国立国会図書館デジタルコレクション」は、国立国会図書館が収集・保存しているデジタル資料を検索して閲覧することができる、国立国会図書館が提供しているサービスです。本サービスに収録されている資料は全て検索ができ、図書や雑誌の目次情報までは参照することができるものの、本文の閲覧に公開範囲が設定されており、誰でも自由にWeb上で閲覧できる資料（インターネット公開）、特定の図書館内の専用端末のみで閲覧できる資料（図書館送信資料）、国立国会図書館内でのみ閲覧できる資料に区別されます。

本学では2016年7月から、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の利用を開始しました。これによって、本学図書館内の専用端末からであれば、国立国会図書館デジタルコレクション上で「図書館送信資料」の本文閲覧が可能となりました。本学図書館からWeb上で閲覧できる資料の点数は2016年9月現在、次のとおりです。

資料種別	インターネット公開	図書館送信資料
図書	約35万点	約50万点
雑誌	約0.9万点	約78万点
古典籍資料（貴重書等）	約7万点	約2万点
博士論文	約1.5万点	約12万点
官報	約2万点	—
憲政資料	約300点	—
日本占領関係資料	約4万点	—
歴史的音源	約0.1万点	—
脚本	2点	—
石巻日日新聞（いしのまきひびんぶん）	6点	—
点字データ	約200点	—
電子書籍・電子雑誌	約30万点	—

※これら以外にも、国立国会図書館内でのみ閲覧可能な資料があります。

上記の表の「インターネット公開」分については、利用に制限はなく、いつでも、誰でも、「国立国会図書館デジタルコレクション」（<http://dl.ndl.go.jp/>）から検索・閲覧することができます。「図書館送信資料」の本文を閲覧したい場合は、館内設置の専用端末でのみ閲覧可能ですので、図書館2階のレファレンスカウンターで利用の申し込みをしてください。利用の際の基本事項は次のとおりです。

【利用できる方】本学図書館で資料の貸出サービスを受けることができる方。

【利用時間】各日9:00～図書館閉館まで。利用待ちの方がいる場合は1時間までの利用。

【閲覧場所】図書館2階レファレンスカウンター近くの専用端末（1台のみ）。

【その他注意事項】デジタル化資料のダウンロード、持ち込みデバイスへの保存、画面のキャプチャ、カメラ撮影、スキャニングなどは禁止しています。複写を希望する場合は、著作権法の範囲内での複写が可能ですので、図書館2階レファレンスカウンターでご確認ください。複写料金はモノクロ1枚10円、カラー1枚50円です。

実際の検索から閲覧までの手順を確認してみましょう。(2016年9月7日現在)

#### ◆トップページ



左図は国立国会図書館デジタルコレクションのトップページです。①の検索ボックスにキーワードを入力して検索することができ、下のチェックボックスでインターネット公開資料、図書館送信資料、国立国会図書館内限定資料の3種から公開範囲を選ぶことができます。

②のメニューからは、資料種別ごとに閲覧できる資料を表示させることができます。資料種別ごとの正確な資料点数はこちらから確認することができます。

今回の検索では、上記の公開範囲3種全てにを入れた状態で、キーワードを「賀茂祭」として検索します。

#### ◆検索結果画面



検索結果画面が表示されました。国立国会図書館デジタルコレクションは、資料種別ごとに収録されている情報が異なり、例えば図書や雑誌であれば、タイトルや著者名などだけでなく、目次情報からも資料を検索することができます。

③の「絞り込み」メニューでは、今表示されている検索結果からキーワードを加えて資料を限定したり、資料種別やNDC分類、出版年などの項目で検索結果の絞り込みをすることができます。

④の検索結果部分では、入力した「賀茂祭」のキーワードが黄色くハイライト表示されています。資料名横に本文の公開範囲が示されており、「国立国会図書館/図書館送信限定」と書かれてあるものは本学図書館内の専用端末で閲覧でき、「国立国会図書館限定」と書かれてあるものは国立国会図書館内で閲覧可能です。

今回は上から9つ目の『賀茂祭絵詞』を閲覧するため、タイトル部分をクリックします。

#### ◆本文の閲覧



本文が表示されました。今回閲覧した資料は巻物で、左図はページを少し進めたところ、コマ数で言うと9コマ目です。

⑤には書誌情報が表示され、タイトルや著者、デジタル化した出版者など、詳細な情報を確認できます。図書資料などの場合は、目次・巻号の項目に切り替えることもできます。

⑥のメニューで前後のコマ(ページ)に移動したり、拡大・縮小ができます。また、参照している部分をJPEG画像で表示することもできます。

データベースの利用について分からない点は、図書館2階レファレンスカウンターでお尋ねください!

※画像転載元：国立国会図書館デジタルコレクションWebサイト (<http://dl.ndl.go.jp/>)

旬な  
話題を解説!

# 今をキャッチ。

キーワード 07

人工知能の今と未来

(解説：林原 尚浩)



人間の生理学的な面での理解は21世紀に入り飛躍的に進んだ。

一方、人間の知能は脳を解剖しても解明することはできないため、知能の発現や処理過程、脳に障害が起こった時の状況などについては、いまだ未知の部分が多い。

そんな中、コンピュータ科学における人工知能(AI)研究が脚光を浴びている。

人工知能は、コンピュータ上に人間と同等の知能をソフトウェアとして実現するという、コンピュータに関わる研究者の長年の夢である。幾度の期待と失望を超え、自然言語処理、機械学習、情報検索、ビッグデータ処理などの技術を組み合わせてその実現が試みられている。

その一例として、米国のクイズ番組で優勝したIBMの「Watson」や、イ・セドル九段を破ったGoogle DeepMind社の囲碁プログラム「AlphaGo」などが挙げられる。また、小説、作曲、絵画などでも人工知能による創作が行われており、自動車の自動運転などへの応用も実用段階へ近づいている。しかし、これらが人間の「知能」を実現しているのか? という疑問も残る。

ここで推薦する図書は、人工知能と人間の関わりや、そもそも人間の知能とはどのようなものなのかなど、人工知能を様々な側面から「見る」ために興味深い内容が含まれており、人工知能に興味のある方に広く楽しんでもらえると思う。

(はやしばら なおひろ コンピュータ理工学部教員)

もっと知りたいあなたに。 ※林原先生ご推薦!



『脳はすごい: ある人工知能研究者の脳損傷体験記』

クラーク・エリオット著, 高橋洋訳, 青土社, 2015 (936||ELL 2階)

人工知能研究者クラーク・エリオットが交通事故により脳震盪症を起こし、その後回復するまでの詳細な記録により、人間の認知機能の変化や健常者がごく当たり前に行っていることが、どれだけ複雑で困難なことかを説明している。事故前の自身との感覚のずれから起こる自我(本書ではゴーストと呼んでいる)の喪失に悩みながら最終的に自我を取り戻す過程は、人間の知能を解明する一つの手がかりになるかも知れない。

『人工知能は人間を超えるか: ディープラーニングの先にあるもの』

松尾豊著, KADOKAWA, 2015 (007.13||MAT 2階)

最近、週刊誌をはじめ様々な媒体でも取り上げられている「機械学習」や「ディープラーニング」について知りたい方には、こちらの著書をお薦めする。比較的平易な言葉で書かれているので、前提知識が無くともこれらの手法について理解できると思う。工学的な観点から人工知能を知るための良書である。



『シンギュラリティ: 人工知能から超知能へ』

マレー・シャナハン著, ドミニク・チェン監訳, NTT出版, 2016 (007.13||SHA 2階)

人工知能が近い将来実現することを前提に、認知ロボット工学者の視点から、人間と同等以上の知能「超知能」や「人工知能に意識は芽生えるか?」など興味深いテーマを含んでいる。工学的な側面だけではなく、社会的、道徳的な観点からも人工知能について考えさせられる一冊となっている。



# 自著を語る (No.92)

平塚 徹 執筆

『「特集」談話、テキスト、会話』

(フランス語学の最前線 ; 4 )

東郷雄二・春木仁孝編

ひつじ書房, 2016



(850||HUR||4 2階)

今回、「自著を語る」の執筆依頼をいただきました。とは言っても、私は、『フランス語学の最前線』第4巻の11人もいる寄稿者の一人に過ぎないので、「自著」というのは該当しません。しかし、せっかくいただいた機会ですので、同書および拙論について簡単に紹介してみたいと思います。

フランス語学というのは、文字どおり、フランス語について研究する学問です。フランス本国はもちろんのこと、世界中で、そして、日本でも研究されています。しかし、従来、日本のフランス語学はその成果を外に向かって発信することに熱心ではなかったという反省がありました。そこで、フランス語学の成果を外部に発信するという趣旨で、数年前から、『フランス語学の最前線』というシリーズの刊行が始まりました。フランス語の例文には全て和訳と英訳をつけるなど、フランス語を知らない読者への配慮がなされています。第1巻は「名詞句意味論」、第2巻は「時制」、第3巻は「モダリティ」、第4巻は「談話・テキスト・会話」をテーマとして編纂されました。

私はこの第4巻に寄稿したのですが、編集者側の意図とは異なる論文になってしまったと思います。私はそもそも機能主義と呼ばれる立場からフランス語の研究を行っていました。本書の「まえがき」にも、私はそのような研究者として紹介されています。「談話・テキスト・会話」というテーマでの依頼でしたので、私に機能主義的な論文が期待されているのは明らかでした。そこで、ずいぶん前にやりかけたまま放置していた前置詞句外置構文の機能主義的分析をすることにしました。しか

し、実は、私はもう何年も機能主義的な研究をしていませんでした。そして、その間にさまざまなことが変わって 있었습니다。そのため、研究を進めていくうちに、だんだんと当初の目論見からずれていきました。そして、結果的に、用法基盤モデルという考え方に基づいた研究になってしまいました。原稿を出した時には、編集者の先生からも驚かれました。上述のとおり「まえがき」で私は機能主義の研究者として紹介されていますが、拙論はそれとは異なる研究であると断り書きもつきました。もっとも、新しい方法論での研究ですので、「最前線」のタイトルにもふさわしい論文になったと思っています。

拙論は、「主語名詞句からの前置詞句外置構文：用法基盤モデルによる分析」というタイトルです。この論文では、前置詞句外置構文の使用実態を観察すると、特定の語彙項目を含んだ特定のパターンが極めて高い頻度で生じていることを示しました。そして、これらの表現が定型表現として定着していて、これに基づいて、それとは少しずつ異なるさまざまな変異形が低頻度で生じていることを主張しました。

従来の理論言語学では、具体的な語彙とは独立したものとして、文法の抽象的な規則や原理が追求されてきました。しかし、この考え方は、現在、実際の言語運用から文法が生じてくるとする用法基盤モデルによって批判されています。拙論は、後者の考え方を支持するものであり、言語が人間の脳にどのように実装されているかを示唆するものです。

(ひらつか とおる 外国語学部教員)

# Information

## ◆新しい学習支援「Lib.トーク」について

2016年秋から図書館1階Lib.コモンズ(図書館ホール)にて、「Lib.トーク」と題して、双方向対話を想定した参加型のイベントを実施します。今年度は秋学期中に全3回の実施を予定しており、実施日など、詳細は決定次第POSTや図書館Webサイトなどでお知らせします。積極的なご参加をお待ちしています！

## ◆「学生選書」資料の展示を行います！

図書館は、図書館サポートチーム「ピブリア」(学生ボランティアチーム)と協力し、8月22日(月)に丸善京都本店にて、学生目線で図書館に所蔵してほしい資料を選択・収集する「学生選書ツアー」を行いました。

つきましては、下記の期間、選んだ本の展示を行います。簡単なアンケートも用意していますので、ぜひ皆さんのご意見をお聞かせください。また、別途学生選書ツアーの報告会の実施を予定しています。こちらにもぜひ、ご参加ください。

期間：10月5日(水)～11月16日(水)

場所：図書館2階メインカウンター前

※報告会はLib.トークの一環として、10月19日(水)午後1時30分～を予定。

## ◆もっとイタリア！ 日伊国交150周年記念展示

1866年に日伊修好通商条約を締結してから150周年目にあたる2016年、図書館が所蔵するイタリア関係の資料を展示します。ダ・ヴィンチの手稿(複製)をはじめ、イタリアの歴史、美術、建築・世界遺産、食文化、ファッション・音楽、文学、天文の8分野に関する資料を集めました。関連イベントや教員のおすすめ本コーナーもあります。この機会にもっとイタリアを知って、楽しみませんか。

<関連イベント>

Lib.トーク「ダ・ヴィンチの手稿、その謎に迫る」

齊藤泰弘先生(外国語学部教員)

12月5日(月)午後4時45分～午後6時15分

Lib.コモンズ(図書館ホール)(定員：先着150人)

学生・教職員・一般の方、どなたでもご参加ください。

※各イベントなどの詳細は、図書館Webサイト、POST、各種掲示などを確認してください。

## 編集後記

磯谷：浅田氏の講演会ではご自身の経験に基づいた貴重なお話を聞くことができました。1日4時間の読書はなかなか難しいですが、できる限り、積極的に本を手にとろうと思います。

北村：ピブリアメンバーによる記事「聖地巡礼」。私も巡ってみたい！

鈴木：秋風が心地よい季節。みなさん、読書してますか？

鳥居：初めて編集に参加しました。ぜひ感想をお寄せください。

平野：読書＝娯楽ということでこの秋はたっぷり楽しみたいと思います。

真部：編集担当職員が知恵を絞って作製する『Lib.』。ぜひ、読んでみてください！

## 寄贈一覧(教員文庫)

寄贈順(2016年3月28日～2016年7月29日)敬称略

### 井口 正彦(外国語学部)

『国連組織(ニュースに出てくる国際組織じてん1)』彩流社、2016

『Divergence and convergence of automobile fuel economy regulations』Springer、2016

### 藤井 秀昭(経済学部)

『エレメンタルマクロ経済理論』晃洋書房、2016(執筆)

### 加茂 知幸(経済学部)

『経済数学』東洋経済新報社、2016(共著)

『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2016(共著)

### 吉田 和男(経済学部)

『安全保障の経済分析』日本経済新聞社、2016(執筆)

『日本財政論』京都大学学術出版会、2016(執筆)

### 川合 全弘(法学部)

『ユンガー政治評論選』月曜社、2016(編訳)

### 平塚 徹(外国語学部)

『「特集」談話、テキスト、会話』(フランス語学の最前線4)ひつじ書房、2016(執筆)

### 永田 和宏(総合生命科学部)

『あの午後の椅子』白水社、2016(執筆)